



「お盆」のはなし

お盆に関する事を説いたお經を『仏說盂蘭盆經』（ほとけさまのお説きになつたウランバーナ（さかさづりの苦しみ）についてのお經）と云います。

「經」（きょう）とは、ストーラといつて、お釈迦さまが「このことを経倫（よこ）糸生活上のより所と）しなさい」と示されたことばの意味です。

しかし、お釈迦さまが教えたのは紀元前470ころで、文字のない頃でしたからそのおしえのことばは、覚えやすい詩句にして覚え、また伝承していきました。このころの伝承詩句そのままを今に伝えているストーラは『スッタニバータ』・『法句經』など極く少数です。

それ以降は、声聞僧と呼ばれる釈迦の説いた法を正しく聞いた人々の伝えたもの。自分の理解で仏説を理解し伝えた「縁覚（えんがく）」と呼ばれる人達の伝えた仏教。また菩薩（釈迦の教えの実践者）の伝えた仏教などが、ストーラ（經）として自然に伝承してきました。そのように様々な伝承のあいだに、個人的な解釈も混入してきましたし、その時代時代の思想風潮も混入したことであつたでしょう。また仏教が広い地域に伝播していく過程でその地方地方の風習風俗なども取り入れられていました。

のちにこれらの經を「偽經」などと否定する人達もいますが、わたしはそれは正しくないと思います。

この『盂蘭盆經』にはいろいろ興味のある、それだけに一般庶民には馴染みやすいお經になっています。中国では竺法護三藏という方の伝えたといわれるお經として中国・日本に広く流行しました。

お釈迦さまの十大弟子の一人に「目蓮」（もくれん）という人物がいました。神通力が優れています。亡き母の行方を探したところ餓鬼道（欲望にさいなまれる世界）に墮ちて「さかさづり」（これをインドのことばでウランバーナという）の苦難に今も苦しむ母を見ました。母とは、自分の子供のために生涯欲望に身を焦がすもの。母を死したのちまで子ゆえの苦難に苦しめているのは私（子供）故ではないか。この母を救うには。

目蓮はお釈迦さまに助けを求めました。お

釈迦さまは、「丁度いま仏弟子たちが夏安居（ケンシ）といって雨季三ヶ月間（雨季、そこに出て出ると小さな虫を殺してしまうから）外出せず僧院などにこもって自学自習の修行をしていざる。その最終日7月十五日（又は八月十五日）は「自恣」（じし）といってみんなで反省会・自己懺悔の集会を行う。あなたもその中に入り共に懺悔しなさい」と教えたという。

月の光に照らされていま生かされているこのいのちのもつたいなさを顧みようではないか」という教えだったのでしょう。

この孟蘭盆經のおしえは、中国の儒教道德と融合して全土で今も盛大に行われています。

日本でも七世紀齊明（さいめい）天皇の頃から、他の習俗民族と融合しながら現代まで全國的に行われています。

しかし、何をおいても大事なことは

「懺悔供養」と云うこと。己の今の生きざまを反省し、今あるいのちの意味をお念仏のな

かで問うことであると思う。

お地蔵さま

八月二十三日は「地蔵盆」です。

出石の町では、区の婦人会のお世話で、区ごとに地蔵尊の祭壇がしつらえられます。

その日の早朝、お城山や弘法山（入佐山）を、久々に区の祭壇にお迎えし、沐浴しお化粧し、真新しい前掛けも取り替えられます。

赤毛氷の最上段にお地蔵さまを安置し、ケイトウなどの大きめの花を賑やかにお飾りし、夕刻お参りにくる子供たちに配るお供養のお菓子などもお盆に盛り上げ、西瓜なども豪勢に並べます。「何々区地蔵尊」と書いた提灯を竿一杯に吊るし、前の道路横一杯に掛け渡します。

お飾りが一段落すると、子供たちがお参りに来る間、おばさんたちは鐘を叩いて「ご詠歌」を合唱します。昭和のはじめごろまではそれが習いでした。

さて、この「地蔵さま」とはどんなお方なのでしょうか。『地蔵菩薩本願經』（竺法護三藏訳）などのお經によりますと、お釈迦如来さまがお亡くなりになつて以降、その教育の影響力が衰退し、教道滅尽、教えのない救いのない暗黒時代。その暗い時代を救うため弥勒菩薩が発願修行して弥勒如來となるまでの期間、この暗黒時代（五十六億七千万年）。

一四日（水） 稲葉保夫宅 一周忌

一五日（木） 奥地余男宅 一周忌

十一日（日） 出石A お盆回り

一三日（火） 出石B お盆回り

十二日（月） 出石C お盆回り

八日（木） 孟蘭盆会 戦没者追悼法要

三日（土） 永井 實宅 初盆

一日（木） 下陣襖繪工房見学（京都）

八月 勝林寺 予定

八月二十三日は「地蔵盆」です。

出石の町では、区の婦人会のお世話で、区ごとに地蔵尊の祭壇がしつらえられます。

その日の早朝、お城山や弘法山（入佐山）を、久々に区の祭壇にお迎えし、沐浴しお化粧し、真新しい前掛けも取り替えられます。

赤毛氷の最上段にお地蔵さまを安置し、ケイトウなどの大きめの花を賑やかにお飾りし、夕刻お参りにくる子供たちに配るお供養のお菓子などもお盆に盛り上げ、西瓜なども豪勢に並べます。「何々区地蔵尊」と書いた提灯を竿一杯に吊るし、前の道路横一杯に掛け渡します。

お飾りが一段落すると、子供たちがお参りに来る間、おばさんたちは鐘を叩いて「ご詠歌」を合唱します。昭和のはじめごろまではそれが習いでした。

さて、この「地蔵さま」とはどんなお方なのでしょうか。『地蔵菩薩本願經』（竺法護三藏訳）などのお經によりますと、お釈迦如来さまがお亡くなりになつて以降、その教育の影響力が衰退し、教道滅尽、教えのない救いのない暗黒時代。その暗い時代を救うため弥勒菩薩が発願修行して弥勒如來となるまでの期間、この暗黒時代（五十六億七千万年）。

一四日（水） 稲葉保夫宅 一周忌

一五日（木） 奥地余男宅 一周忌

十一日（日） 出石A お盆回り

一三日（火） 出石B お盆回り

十二日（月） 出石C お盆回り

八日（木） 孟蘭盆会 戦没者追悼法要

三日（土） 永井 實宅 初盆

一日（木） 下陣襖繪工房見学（京都）

八月二十三日は「地蔵盆」です。

出石の町では、区の婦人会のお世話で、区ごとに地蔵尊の祭壇がしつらえられます。

その日の早朝、お城山や弘法山（入佐山）を、久々に区の祭壇にお迎えし、沐浴しお化粧し、真新しい前掛けも取り替えられます。

赤毛氷の最上段にお地蔵さまを安置し、ケイトウなどの大きめの花を賑やかにお飾りし、夕刻お参りにくる子供たちに配るお供養のお菓子などもお盆に盛り上げ、西瓜なども豪勢に並べます。「何々区地蔵尊」と書いた提灯を竿一杯に吊るし、前の道路横一杯に掛け渡します。

お飾りが一段落すると、子供たちがお参りに来る間、おばさんたちは鐘を叩いて「ご詠歌」を合唱します。昭和のはじめごろまではそれが習いでした。

さて、この「地蔵さま」とはどんなお方なのでしょうか。『地蔵菩薩本願經』（竺法護三藏訳）などのお經によりますと、お釈迦如来さまがお亡くなりになつて以降、その教育の影響力が衰退し、教道滅尽、教えのない救いのない暗黒時代。その暗い時代を救うため弥勒菩薩が発願修行して弥勒如來となるまでの期間、この暗黒時代（五十六億七千万年）。

一四日（水） 稲葉保夫宅 一周忌

一五日（木） 奥地余男宅 一周忌

十一日（日） 出石A お盆回り

一三日（火） 出石B お盆回り

十二日（月） 出石C お盆回り

八日（木） 孟蘭盆会 戦没者追悼法要

三日（土） 永井 實宅 初盆

一日（木） 下陣襖繪工房見学（京都）

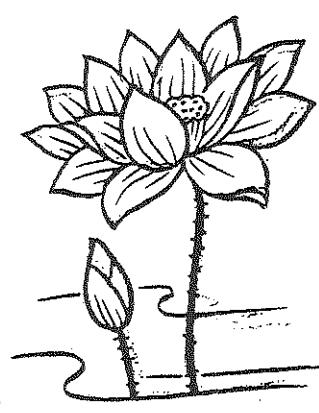
この孟蘭盆經のおしえは、中国の儒教道德と融合して全土で今も盛大に行われています。

中国に仏教が渡来してすぐ（竺法護がこの經を翻訳した）、この地蔵信仰は儒教思想と合習し、今もこの信仰と祭りは盛んです。

日本でも仏教渡来（齊明天皇期）と同時に流行し、日本の習俗と合体して「賽の河原」「子安地蔵」「延命地蔵」「六地蔵」などさまざまなお地蔵さまを生んできました。

「笠地蔵」などの民話もでき、童謡にも唄われています。

むらのはずれの お地蔵さまはいつもここにこみてござる



（敬称略）

八月八日、勝林寺では毎年「戦没者追悼孟蘭盆会法要」が勤まります。

昭和二〇年。大東亜戦争敗戦の一年だけに限つてみても、あの戦争の悲惨さを顧みざるを得ません。

勝林寺は門徒戸数二一〇余り。この寺の過

去帳に昭和二〇年の戦没者として記載されている方は、なんと百名余り。その殆どが二十代の若い兵士たち三十二名。しかし、この戦死者には国から叙勲もあり僅かながら年金も下附されました。寺の過去帳にもすべて院号がつけられています。また、それぞれの町村で戦死者追悼法要も當されました。しかし外に、当時の食料事情・医療事情のなかで亡くなつた老人や乳幼児、全体の三分の一。明らかに戦争犠牲者でありながらなんの処遇もありません。

中でも、悲惨なのは「満州開拓移民団」の

方々です。満州は「王道樂土」。「五族共和」で貧富の差もないなど國からの宣伝と執拗な勧誘のなか、家屋敷を売り払い古里を捨てて寒い満州の荒野に遣られた人達です。その数、一三〇人。その殆どは歳老いた女性と幼い子供達です。若い男ははやく現地召集ということで兵隊にとられ村から離れていました。その、老人おんな子供の村に戦争が一挙に押し寄せて来ましたのです。

守つてくれるはずの日本軍は早く壊滅状態。女子供を置いて早々に撤退していきました。

身を守る軍隊はもちろん鉄砲・武器も殆ど残つていません。集団を組んで逃げる。それしかりません。果てしない逃亡行軍のなかで次々に老人子供は倒れて行きました。もうこれまでと覚悟を決めたと申します。八月八日。眼下は濁流うすまく大河。最後と悟った人の中から誰いうとなく「お正信偈さん」をあ

げようということになりました。

「正信偈」が終わって「お念佛」に入つたら

次々堤を降りて大河に身を沈めるのです。

「弥陀成仏のこのたは！」。ご和讃の始まつたとき、一発銃声が聞こえました。子供をおぶした母親が、子供の重みで沈めないのを、

その肉親が銃で撃つて死なせてやつたのです。この人達には遺族も遺産もなにももうなにも残つてはいません。

その八月八日。わたしたちはあの人達の唱えて死んだと同じ「正信偈」を唱えます。

その八月八日。わたしたちはあの人達の唱え是非お参り下さい。



稚児行列への参加申し込み

ありがとうございます

いよいよ、遠忌法要を勤修させていただ

く九月二十九日まで、あと二ヶ月を切りました。各役員の皆様には、着々と準備を進めていただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。また、当日の出役等で多くの方にお世話になります。

法要に花を添えていただく稚児行列にも、

六月末の締め切り地点で、四〇名近くのお

申し込みをいただきました。大変ありがとうございました。当日が好天となり、多くの方

に、かわいい稚児の皆さんを見ていただけます。

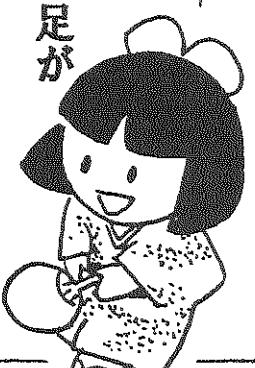
つきましては、八月中旬を目途にお申し

込みをいただきました各戸に、詳細をお知

らせするお便りを発送予定です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

法話カレンダー
八月の法話

確かな一足一足が



念佛によって与えられている

出典：宮戸道雄

「仏に遇う」ということ

その、生きることを支える力こそが、念佛なのだ」と、この法語は教えてくれる。し

かも、その歩む一足一足の確かにさは、私の計らいにはない。念佛に命を託して生きるとき、本当に確かに生き方が、私に恵まれる。生きていくことがちゃんと意味を持つてくる。それがすなわち「確かな一足一足が念佛によって与えられてくる」ということなのだと私は思う。

今ここに、このように生きているという事実そのままを生きよ、そう私に呼び返してくれるいのちが念佛なのだ、と親鸞聖人は教えてくださる。生きる、それ以外に生きることの意味はない、と聖人の野太い声が聞こえてくるような気がする。

(真宗教団連合HPより抜粋)

いよいよ、遠忌法要を勤修させていただ

く九月二十九日まで、あと二ヶ月を切りました。各役員の皆様には、着々と準備を進めていただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。また、当日の出役等で多くの方にお世話になります。

法要に花を添えていただく稚児行列にも、

六月末の締め切り地点で、四〇名近くのお

申し込みをいただきました。大変ありがとうございました。当日が好天となり、多くの方に、かわいい稚児の皆さんを見ていただけます。

つきましては、八月中旬を目途にお申し

込みをいただきました各戸に、詳細をお知

らせするお便りを発送予定です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

どすん

先日PTAの会合でグループ討議が行われました。「今

の高校生は挨拶をしない」「携帯ばかりさわって…」

こういう場でのお決まりの

発言が続きます。私は「いえ

いえ、うちの前を通る高校生はよく挨拶を

してくれます。観光客に道案内している姿

もよく見ます」といいましたが、子どもの現状を嘆くだけの発言にモヤモヤ感が残りました。ところが、その数日後に参加した寺の研修会で、このモヤモヤをすつきり解消することができました。

研修会は、「真宗門徒として差別問題にどう向き合うか」という内容でした。とても重い内容で、少人数に分かれても発言しにくい雰囲気でした。一人の方が、勇気をもつて、他地域で耳にした現状を発言するごとに、口火を切つてくださいました。「へえ、そんなことがあるのか」と、傍観者的に聞いていたその時、同じく出席者のある二住職が「ここでは、他人事ではなく、自分がどう感じ、どう考え、どう行動するかを語りましょう」と提言してくださいました。

おかげで、この後自分自身の感じ方や行いを振り返ったり、これからどうしていくかという発言が続きました。誰もが発言しやすくなり、なおかつ前向きな話し合いになりました。頑張る意欲もわきました。

ここで、前述のPTAでの発言を感じたモヤモヤ感の原因に思い当たりました。現状を嘆くだけで、自分を振り返り、自分がどう行動するか語らない大人に私はイララしていたのです。原因がはつきりして、私はすつきりしました。次にこう言う場面に出会つたら、「それでは、これから私たち親はどう行動するか考えましょう」と投げかけ、一緒に考えていくことを思います。